

## 人工採卵装置を使ったカワヒガイ水槽内繁殖の試み

佐々木 興（環境修復プロジェクト）

環境修復プロジェクトでは、島根県内に生息する希少生物の保護・繁殖に向けた飼育技術の開発を行っている。カワヒガイは河川中・下流域や水路などに生息し、淡水二枚貝に産卵する珍しい繁殖生態をもち、環境省レッドリスト2020では準絶滅危惧種に選定されている。

淡水二枚貝そのものが減少している現在、より簡易な方法でカワヒガイの受精卵を得るために、本事業では半透明の容器で作成した人工採卵装置で水槽内繁殖に取り組み、受精卵と仔稚魚を獲得した。人工採卵装置は、半透明のポリプロピレン製サンプル瓶（直径60mm、高さ75mm）で作成した模擬的な二枚貝となる採卵部と、水の流れを作る集水部からなる。

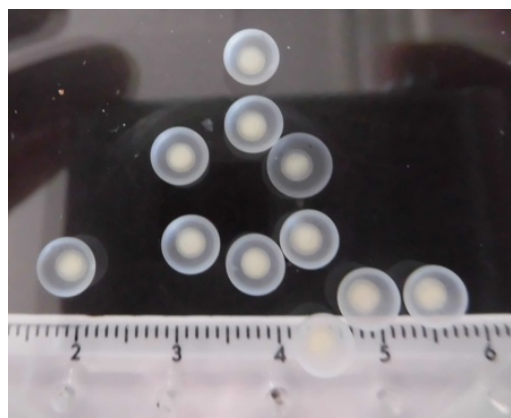
実験は、2023年5月11日から開始し、この採卵装置設置に対して5月15日以後、のべ7回の産卵を確認し、総採卵数は118個であった。

カワヒガイの受精卵は、平均卵径6.2mmと巨大であり、ふ化までに19.6～20.8℃の水温条件下で10～14日かかった。ふ化仔魚は平均全長11.6mmあり、すでに開口して尾鰭も形成され、すぐに摂餌を開始した。ふ化後30日目で平均全長26.6mm、64日目で平均全長44.4mmとなり、成魚と変わらない姿になった。

今回は、人工採卵装置で採卵した際の条件を報告すると共に、成功に至った要因などについて考察していく。



人工採卵装置



受精卵